

【資料3-1】

学校関係者評価書

学校名 佐賀県立白石高等学校

1 学校関係者評価実施状況

(1) 学校関係者評価実施日 令和2年3月24日(月)～27日(金)

(2) 評価者氏名 平川 年明委員、本居 文枝委員、谷崎 孝則委員

(3) 資料(評価の参考とした資料)

- ・学校評価結果
- ・学校評価アンケート集計結果
- ・令和元年度3年生進路結果
- ・令和元年度部活動結果
- ・白石高だより

2 評価

(1) 学校運営について

①目標の妥当性及び達成状況

- ・目標は概ね妥当である。校舎制によって生じる諸問題にどう対応するかが最も大きな課題であるが、その解消に向けて努力がなされており、少しずつではあるが合同行事も増えている。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

- ・取組状況は概ね適切である。先例のない課題が多くあるので、完全な問題の解消や、十分な成果を生むことは難しく、高い自己評価に至らないのはやむを得ないところがある。

③改善方策の適切さ

- ・校舎制に関する課題の解消や、働き方改革についての改善方策は、学校内の自助努力だけでは大きな効果は見込めないのではないか。

(2) 教育活動について

①目標の妥当性及び達成状況

- ・学力向上については、生徒の進路目標が多様化する中で、学校の目標が従来のままになっているところがないか。そのために達成状況も低いのではないか。
- ・目標については、具体性を担保するために、可能な限り数値目標を示した方がよい。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

- ・取組状況及び自己評価結果については概ね妥当であると思うが、適切な取組を行っているにも関わらず、2年連続して自己評価結果の低い項目に関しては、やはり目標の妥当性を吟味する必要がある。

③改善方策の適切さ

- ・改善方策は概ね適切であるが、具体性に欠けるものがある。

3 その他学校に対する意見や提言

- ・「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」において、地域との連携を熱心にやってもらっているのも、もっと広く地域に伝わるように広報にも力を入れた方がよい。
- ・佐賀県内、特に西部地区の子供の数が減少していく中で、志願者数を確保するのは年々難しくなっていくだろう。そのための努力は必要だが、どこかの高校に生徒が集まれば、西部地区の別の学校が定員割れするというのが現状である。西部地区としてどうあるのが理想なのか。